学校・保育所のあり方地域説明会と町政懇談会

意見・質疑応答の概要

日　時	令和６年８月５日（月） 18:30～20：07	会　場	旧新田郷地区公民館
参加者	６名	町出席者	町長、副町長、教育長、 学務課長、祐征主査、里子主任、 企画財政課長、刈田代理

○学校・保育所のあり方地域説明会

番号	質疑・意見	応　答
1	（野々宿　男性） 中高の一貫校は横手にあったりして聞いておりますけれども、小中の一貫校については今日初めて聞いて、正直びっくりしております。そういう面ではもう少し町民への周知をしていかないと、なかなか理解が得られないんじゃないと思います。 また、昔から子供は地域で育てるという言葉がありますが、私たちの部落に遊び場がありまして、鉄棒と滑り台とブランコがありましたが、２～３年前に鉄棒と滑り台は危険だからということで両方撤去されてしまい、結局今はブランコが残っているのみで残念。 そういう面では子供を地域で育てるという視点が西和賀町では弱くなってきているのではないかと思っていて非常に残念です。 遊具の撤去は、聞くとこの地域ばかりじゃなく町内の何ヶ所かそういう状況の話を伺ってました。	（教育長） 小中一貫校については、学校現場の方では話題になっているところですけれども、町民の皆さんにはまだまだ浸透できてないかなと思っています。ただメリットは異学年交流ができたり、保護者も小学校の保護者も、中学校の皆さんも１ヶ所に集まりながら意見交流ができて、15 歳までの学びの話ができるコミュニティの場になる。 地域毎に特色がある。これから進めていく中で、地域との繋がりを深める方法を皆さんと一緒に考えていきたい。 遊具についてのお話は他の地域からも出ております。雨が降った時とか雪が降った時に遊べる場所が少なくなっていることについても検討をお願いしたいというお話もいただいている。これから施設の整備と合わせて考えていきたい。
2	（中村　男性） 地域自体が崩壊していく状態の	（教育長） 人が少なくなってきてだんだん

	中で、学校、子どもたちと繋がっていくのはなかなか厳しいんじゃないかと思っています。 　今日もお子さんを持った家庭は１人しか来ていませんが、スクールバスになったりして地域で子どもを見ることがないこととか、地域の維持も難しくなってきているという意味では、地域と子どもたちとの繋がりというのは希薄になっていると思います。	希薄な傾向になってきているかとは思いますが、地域の地区体協を活発にさせたいということで、簡単に誰でも取り組めるようなレクリエーション、モルックやグランドゴルフに地域で集まってもらったら、前年度一斉にやった時よりも地域でやった方が倍以上の人たちが集まったという事例もあります。今の話しとは違うかもしれませんが、これから町民の皆さんの教育に対する思いをぶつけ合いながら、少しでも活気が戻るように、新しい視点で物事が見れるようなことを試行錯誤していきたいと思っている。

○町政懇談会

番号	質疑・意見	応　答
1	（野々宿　男性） 　水田化の問題はわが町の農家にとって一大問題である。町長さんから水田化の今の状況でどのような対応を考えているのか伺いたい。	（町長） 　水田活用の状況から言うと、いわゆる水田でないものについて国としては水田活用上の支援はできないというのが出されて、西和賀においては、リンドウとかワラビ、そして牧草等の飼料用作物の取り組み方に大きな影響を与えられており、それについての取り組みを今しているところでございます。 　リンドウにつきましては、それを対象にする、しないの結論が出ていない状況で、県に対して対象にして欲しいと要望しているところです。ワラビにつきましては、かなり厳しいのではないかなというような情報が来ているところでございます。牧草については今年から、水田とみなすみなさない、それから種を撒く撒かないもありまし

		て、これまで３万円もらっていたのが１万円ということで、大幅な取り組みを低下させられるような状況ですけれども、今はできるところでということで頑張ってもらってる状況だと思います。ただ長くは続かない。今のままでは厳しいので、どうしていくかというところ。 　ウクライナの影響やコロナの影響で、酪農、畜産を巡る状況で、特に自給飼料の確保ということが国を挙げての課題になってきておりまして、それも含め地域内で酪農を始め、自給できる体制に活路があるのではないかということで、具体的にはＷＣＳ（稲発酵粗飼料）の取り組みもある地区において、２～３年前から西和賀でどうかということでやっていただいており、可能性があるというような状況を伺っております。それと畜産の状況を組み合わせたときに、今後の活路があるのではないかなということで今頑張っていただいている。 　更に若干良い面で言うと、湯田牛乳公社がヨーグルトを中心に販売が好調の面がある。できるだけ地域内で生乳を確保していきたいということで、一歩踏み込んで酪農事業に関わっていくということもあり、その事業をしっかりやっていくためには自給飼料の確保が大事だということで、飼料生産の面においてもかなり踏み込んだ取り組みをしております。その辺にも一つ光があるかと思っております。

		一方、米自体につきましては価格が上がってきている状況があり、農協経由でない出荷をしている方のお話しだと、かなり引き合いも強くなってきて、更には温暖化の関係で南で作っていた品種が北上してきている可能性があり、西和賀はどこまでメリットが生かせるかどうかですけれども、他に比べて標高が高いとか、これまで他でやってきたものを西和賀で出来ないかというような試験をしている状況だということでありましたので、その辺にも可能性があるのではないかと思っております。 相対的には厳しいという状況でありますが、中身を見ていくと、可能性もある部分もあって、そこをより強化して、町が支援できたり共同してやっていける部分をより練り上げていって、この状況を打破していかなければならないと思っているところ。 リンドウにつきましてもこれまでのやり方に加え、スマートリンドウという言い方をしていますが、より消費者、小売店、卸に応えられるような出荷の方法に取り組んでいただいております。生産についての一番のネックは、花を取る時期に労働力が必要だというのもあって、昨年から高校生の体験学習で採花作業を手伝っていただき、想像以上の成果を上げており、それをさらに拡大していきたい。 西和賀は花はまだ需要もあり所得率も高いことから有力。労働が昼夜集中するっていう厳しさはありますけれども、そういう稼げる

		面では非常に可能性があるし、新たな出荷の形態を伸ばしていけば可能性あるなと思います。 　そういったことを総合して農業の強化を図っていければ良いと考えております。
2	（野々宿　男性） 　私は蕎麦をやっていて、１反５、６万円くらいの収入でまずまずやっていけると思っていて、そのうちの約２万円が水田活用交付金で入ってくる。それが水田化しないとダメだということ。町内でも水田化の取り組みをどの程度の面積でされているのかをご存じでしょうか。戸数でも結構ですが。	（町長） 　面積までは把握していないため、今お答えできない。
3	（野々宿　男性） 　ＷＣＳをやっている業者をご存じだと思うが、この地区でも業者に貸してやっている農家が何戸かある。その業者も令和８年までは借りるけれども、それ以降は交付金が無いと割に合わないのでやれないと言われている。その後については、農地水の事業を生かして地域でやっていこうと思っているが、長続きしないと思っている。 　これまでもずっと、何で５年に１度水張りしなければいけないのか聞くと、連作障害が出てくるからと言われる。連作障害なんて大きなお世話。連作障害を解決する方法はいくらでもある。作物を変えれば簡単にできる。それ以外に何が理由で必ず５年に１回水張りしなければならないのかということについて、誰も明確に答えていただける人がいなかった。噂では財務省がお金が無いから支出を抑	（町長） 　私が持っている情報と差は無いと思います。説明をどう理解するか。お金が無いとか連作障害があるので効果が発揮されていないんじゃないかとか、そういうものにいつまでも対策をしていいのか、と言うのが農水の言い分。私が聞いている中では、特に平場において豆の収穫が期待するより上がってきていないという説明はありました。 　西和賀町として主張しているのは、平場の判定と、ハンディのある中山間の農業地域を一緒にしてもらっては困ると訴えている。確かに水田活用上は一歩引いて、田で無いものに田の補助をやるという理屈上、無理だという事ではそれはそれとして、ただそれをやることによって、今まで貸していたものを貸しはがしと言うかそういう状況で、こういう地域では農地の

	えるためにやっているとも聞きます。その辺の連作障害以外の理由をお聞かせいただけないか。	荒廃をより一層招くんだという危機感を再三訴えているところです。
4	（中村　男性） 集落支援員が６地区にいますけれども、支援員の仕事はどこからどこまでとか、何か決まっているのでしょうか。と言うのは、この建物は中村地区で部屋を借りてやってますけれども、基本的には役場が管理するということだったんですが、各地区で支援員がいると思いますが、役割っていうのは地区の住民からもよくわからないと言われます。その辺のところどうでしょう。	（企画財政課長） 具体的に何か、これを頼んだけれども断られたとか、そういうことがありますか。
5	（中村　男性） 支援員はほとんど毎日いるので、トイレとか玄関の掃除とかもやるのかどうか。それも含めて支援員の仕事は決まっているのか、どこまでの範囲なのか。支援員って何をしているんだろうというのをよく聞く。	（企画財政課長） トイレ掃除の事まで把握しておりませんが、支援員の仕事はここからここまでという明確に枠にはめて管理しているという事ではなく、むしろ地域地域の実情に応じて可能な限り地域に入って活動して欲しいと思っております。 トイレ掃除の件も含めて具体的に町の方にご相談していただければと思います。
6	（中村　男性） その相談は支援員を通してということですか。	（企画財政課長） 支援員を通してでも直接でも構いません。支援するために地域に入っていますので、何かあったら活用していただければと思います。
7	（中村　男性） その支援がよくわからない。	（企画財政課長） まず要求があれば言ってください。出来る出来ないはあると思いますので。支援してこないと待っているのではなく、どうぞ要望を出していただいて結構です。

８	（中村　男性） 　恐らくここまではやってくれないんじゃないかとか、遠慮している。	（企画財政課長） 　まずは言ってみてください。